

静岡産業大学・中期計画＜2020年度～2024年度＞(2022/04/1ver)／アクションプランシート（経営学部）

経営学部	基本方針	<p>1. 高等教育機関としての役割を認識し、教育・研究・社会貢献に努める。教育面においては、学生一人ひとりを社会の責任ある担い手として育てていく。すなわち高い専門性と幅広い教養を身につけ、創造性・独創性・倫理観・自ら成長する力を持つ人材として育成する。研究面では真理の地道な探求から新たな知見の創造に努め、成果を社会に公表する。これら教育と研究によって社会に貢献するとともに、その過程において地域社会との関わりを強く持ち社会貢献に努める。</p> <p>2. こうした活動を積み重ねることにより、経営学部の地域社会における存在価値の増大、地域社会の公器としての持続的発展を図るものである。</p>				
	最重要事項	2022年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2022.9)	下期進捗状況(2023.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
	1. 「経営学部教育目標」「3ポリシー」の実践	<p>教育目標及び3ポリシーの実践状況の確認。入試合否判定、カリキュラム、成績評価、卒業判定における4ポリシーの実践に向けた改善。</p>	<p>教育目標及び3ポリシーを大学ホームページ、SSU履修ガイドに掲載し、オリエンテーションなどでの説明により、学外及び学生への周知を図った。また、シラバスにはDPに対応したルーブリック評価を提示し、授業選択、成績評価への3ポリシー適用を実践した。</p>	<p>シラバスにDPに対応したルーブリック評価を提示し、後期授業にも、授業選択、成績評価への3ポリシー適用を実践した。また、来期のシラバス作成について教育目標及び3ポリシー適用を確認・要請した。</p>	<p>◎学部長 ●教務委員長 ●副学部長 △教務課 △入試課</p>	
	2. 学生一人ひとりにとっての、卒業までの有効な学修の支援	<ul style="list-style-type: none"> 学生個人ファイルの作成。教務システム修学ポートフォリオの利活用。 学生に係わる複数の教職員による学業や生活の相談指導。 	<p>基礎ゼミナールにおいて、学生ポートフォリオ（学生個人ファイル）の作成指導を行った。学生個人ファイルの有効活用のために教職員間の共有権限案を策定し、実施準備をしている。父母等相談会を毎期行い、学業や学生生活の改善を家庭の協力の下に進めている。また、適切な履修指導を行うため卒業要件を理解するための教員向け研修会を実施予定。</p> <p>学生支援課、保健センター、カウンセリンググループ及びアドバイザー教員等が連携して学生の相談指導を行う体制の構築に着手。</p>	<p>学生個人ファイルの有効活用のため、教職員間の共有権限案の実施を開始した。</p> <p>父母等相談会を毎期行い、学業や学生生活の改善を家庭の協力の下に進めている。</p> <p>前期父母等相談会対応者（9月3日(土)）：磐田キャンパス42人。藤枝キャンパス25人。</p> <p>適切な履修指導や卒業要件を理解するための教員向け研修会を実施した。</p> <p>学生支援課・保健センター・カウンセリンググループ等の連携の強化が果たせた。</p>	<p>◎学部長 ●教務委員長 ●学生委員長 △教務課 △学生支援課</p>	<p>左記体制において、各アドバイザー教員との円滑な連携体制の構築が課題となっている。</p>
	3. 教育の質保証の向上	<p>PROG等の外部試験の結果とGPA等の比較検証を行い、教員にフィードバックし授業の振り返りを検討する。</p>	<p>1年生に加え3年生でもPROGを実施し、学生の成長を確認できるようになった。学生及び教員に結果のフィードバックを行い、学生の実態把握と授業改善のヒントに繋げている。</p>	<p>PROGについて、学生及び教員に結果のフィードバックを行い、学生の実態把握と授業改善のヒントを得た。</p>	<p>◎学部長 ●教務委員長 △教務課</p>	<p>PROGの活用について教員研修をさらに進めたい。</p>
4. 課外活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> 学生生活全般を教育と捉え、部活動、サークル活動、ボランティア活動等課外活動を活発化させ、学生の主体性、積極性、規範性、思考力、自信の全般的向上を図る。 	<p>部・サークル活動の充実、学内外の活動の積極的な学生の参加により、コロナ禍で見送られていた各種イベントについて実施方法に留意しながらコロナ前に戻していく。</p>	<p>球技大会の開催、対面式の学園祭の再開、新規サークル等の設立など、学生生活の充実を図っている。</p>	<p>◎学部長 ●学生委員長 △学生支援課</p>	<p>オリエンテーション等における部活・サークルの勧誘活動、学園祭の参加者増加、「友達作り」の機会提供等、多くの課題がある。</p>	

	最重要事項	2022年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2022.9)	下期進捗状況(2023.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	5. 就職実績の維持	コロナ感染危機による就職難を乗り越え、高い就職内定率維持。	就職支援については、教員が学内外の各種行事に協働できるよう、役割分担を決めて行動している。就職委員会内の教職員が、就職先品質の向上に努めるべく、企業訪問して常に新たな就職先を開拓している。	県内、学内外で開催される会には、学生動員のため、主にキャリア支援課が中心となり、情報伝達している。各種会には、教職員が参加し、来場企業の担当者に挨拶し、卒業生の近況などを確認している。コロナ禍の状況下が続く中でも、教職員で企業訪問し、任務を遂行している。	◎学部長 ●就職委員長 △キャリア支援課	
	6. 入学者の確保 ・教育内容、就職実績、入試広報など、教職員一丸となった全学体制で入学者募集力を向上させ、大学・学部の活性化及び経営の安定を実現する。 ・経営学部定員350名以上の入学者の確保実現。	定員350名以上の入学者の確保実現。探究型プレゼンテーション入試など新しい入試への取組と既存入試の見直しを行う。	探究プレゼンテーション講座の実施状況、同入試結果の報告、入学前サポートの実施状況等を高校へ丁寧に説明することが、同入試の広報と定着、入学者の安定的確保に最も重要なことであり、それらを確実に実施していく。	本入試を受験した高校だけでなく、受験しなかった高校に対しても、探究プレゼンテーション講座の実施状況、同入試結果の報告、入学前サポートの実施状況等を丁寧に報告した。	◎学部長 ●副学部長 ●高大連携・接続G長 △入試課 △広報メディア課 △高大連携・接続G	
	7. 離学者の防止	・大学生生活の満足度向上。 ・卒業すること・学ぶことへの動機付け。 ・経済的困難学生の支援体制の確立。	静岡県による「大学生等学びの継続支援事業」による経済的困難学生に対する支援を準備中。基礎ゼミナールではレポートの書き方、プレゼンテーションの方法、読書の重要性など大学での学び方を学習させた。また、アドバイザーグループのコミュニティ形成を支援した。 学業不振の学生に対して父母等相談会を行い、学業や学生生活の改善を家庭の協力の下に進めている。また、適切な履修指導を行うため卒業要件を理解するための教員向け研修会を実施予定。 近年の離学率は、17年4.4%、18年4.4%、19年5.8%、20年3.4%、21年2.4%、22年7月0.7%と減少傾向にある。	静岡県による「大学生等学びの継続支援事業」による経済的困難学生に対する支援を予定通りに執行した。 学業不振の学生に対して父母等相談会を行い、学業や学生生活の改善を家庭の協力の下に進めた。父母等相談会参加者：藤枝キャンパス25人。磐田キャンパス42人。また、適切な履修指導を行うため卒業要件を理解するための教員向け研修会を実施した。 今年の夏に静岡新聞社、静岡ガス、エネジ、遠州信用金庫、ソフトプレ工業に訪問し、企業の新卒採用の現状と課題、期待する人材、本学学生や本学への期待と意見などを直接訪問にて確認することが出来た。その結果、特に静岡新聞社・静岡ガスの2社が初めて本学の学内合同企業ガイダンス（2月8日開催）に参加し、多くの学生がブースを訪れる機会となった。選考はこれからであるが、新たな就職先開拓のひとつの好事例であったと考えられる。その他、学生への全員面談を通じて、対象学生に対して、就職することの重要性、大学教育の大切さなど、一人一人に対して面談を実施している。	◎学部長 ●学生委員長 ●教務委員長 ●就職委員長 △学生支援課 △教務課 △キャリア支援課	

項目別アクションプラン					
	2022年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2022.9)	下期進捗状況(2023.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	<p><教育></p> <p>1. 教育の質保証と可視化（IRの基礎データ（入試、学修成績（GPA等）、PROG等学部試験データ等）の整備）</p> <p>2. 100分授業の利点を生かしたアクティブラーニングの実践</p> <p>3. ビジネスコンテストの活用</p> <p>4. ハイブリッド型授業の実施</p> <p>5. 留学生と日本人学生との交流を推進</p> <p>・異文化を知り、思考の柔軟性を促進し、相互の教育効果を高める。</p> <p>6. 社会実践活動、インターンシップ、海外研修の推進（コロナ感染危機の状況に対応しながら）</p> <p>7. 資格取得支援の推進</p> <p>・学生自身の学修計画の目標達成のメルクマールとして活用する。8. 「教職課程」「保育士養成課程」「選抜クラス」の推進</p>	<p>アクティブラーニングの実践を更に広げるため、FD研修で授業参観と研究協議を行う準備を進めた。</p> <p>授業実施方法に関する本学の方針（教員向けガイドライン・4月1日付け改定版）に従い、オンライン授業への5時間程度の対面授業実施、対面授業への5時間程度のオンライン授業実施を認め、両方式の特性を生かした授業を推奨した。</p> <p>基礎ゼミナール、情報処理基礎、コミュニケーション英語で選抜クラスを展開しており、特にコミュニケーション英語は好評である。選抜クラス説明会でクラスの趣旨説明を行い、自覚を持った学生生活を過ごさ^ルキャリアデザイン授業を活用し、学内インターンシップガイダンスなどの新たな取組に着手した。</p> <p>非常勤を含め今年度新任となる教員の遠隔授業に対するサポート体制を整えた。</p>	<p>アクティブラーニングの実践を更に広げるため、FD研修で授業参観と研究協議を実施した（藤枝キャンパス経営学部4人、磐田キャンパス経営学部4人・スポーツ科学部2人）。</p> <p>基礎ゼミナール、情報処理基礎、コミュニケーション英語で選抜クラスを展開した。また、選抜クラスのガイダンスを実施して専門ゼミナールの受講を勧めた。次年度の選抜クラス実施に向けて検討を始めた。</p> <p>今年からインターンシップの運用ルールが変わることを見据え、本学における考え方をいち早く地元企業に示すべく、インターンシップキックオフミーティングを開催した（37社・53名参加）。同時に今後大学と共同してインターンシップを実施する企業への支援（勉強会・プログラム策定など）を行っていく予定である。</p> <p>非常勤を含めた遠隔授業のサポートを継続した。ハイブリッド型授業は、授業の実施方針で認められた範囲内において、担当教員の判断により実施されている。</p> <p>様々なイベントを通じて、学外における留学生と日本人の交流はある程度実施できた。</p>	<p>◎学部長 ●教務委員長 ●学生委員長 ●就職委員長 ●ICT委員長 △教務課 △学生支援課 △キャリア支援課 △情報システム課</p>	<p>5. 学内における留学生と日本人学生の交流の機会を増やす。</p>
	<p><研究></p> <p>1. 教員の学内紀要などへの投稿の増加</p> <p>2. 教員の科研費など外部資金獲得の増加</p>	<p>紀要「環境と経営」第28巻第2号を鷲崎前学長の退任記念号として発刊を予定し、準備を進めている。</p> <p>「環境と経営」の執筆要綱の改定作業に着手した。</p>	<p>紀要「環境と経営」第28巻第2号を鷲崎前学長の退任記念号として発刊した。投稿論文等12本と、多くの投稿を得た。</p> <p>「環境と経営」の執筆要綱を一部変更した。更に紀要の執筆要綱の改定に向けて、スポーツ科学部の紀要担当者との意見交換に着手した。</p> <p>3年ぶりに「全学研究発表大会」を対面で実施した（於藤枝キャンパス）</p>	<p>◎学部長 ●経営研究センター長 ●教務委員長 △教務課</p>	

	2022年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2022.9)	下期進捗状況(2023.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	<地域貢献> 1. 地元市、商工会議所、地元企業などとの連携の実施、学生参加の促進 2. 講座、受託研究など自己の地域貢献の可能性の検討及び積極的、効果的な実施	学友会による学祭（蒼樹祭）における軽トラ市とのコラボなど、地元行事への学生参加を促進を図っている。 社会実践活動を支援するために、「社会実践講座A,B」を開講している。社会実践活動を推進するために、活動参加のポイントを集め易いように改定し、活動を推奨している。	軽トラ市とのコラボ（駅前市への参加、蒼樹祭への招致）など、地元行事への学生参加を促進した。 社会実践活動を推進するために、引き続き、活動参加のポイントを集め易いように改定し、活動を推奨している。 「経営学部ビジネスコンテスト」を復活し、3件の表彰を行った（経営研究センター）。	◎学部長 ●学生委員長 ●教務委員長 △学生支援課 △教務課	
	<入試> 1. 入学者層のレベルアップを図りつつ、入学定員350名以上の確保 2. 教育の質向上や特待生入試の活用により、入学者層のレベルアップの実現	探究プレゼンテーション入試事前講座を開催した。本学の学びを体験してもらうだけでなく、高校などへの周知を期待しながら、受験希望者にポイントを教授している。	協定校を中心とした「探究学習出張講座」の実施準備。合わせて探究プレゼンテーション入試の拡充を目指す。 特待生入試の見直しによる幅広い層からの受験生獲得を目指す。	◎学部長 ●副学部長 △入試課	

	2022年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2022.9)	下期進捗状況(2023.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
経営学部	<p><就職></p> <p>1. コロナ禍で情報+ICTに強く「就職に強い静産大」の定評を守る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の充実 ・就活逃避者を出さない ・全学体制指導：キャリア関連科目、クラスアドバイザー・アドグル担当、ゼミ教員、就職委員会、キャリア支援室、保健センター、部活動他による連携指導・相談 <p>2. 就職の質的向上</p> <p>3. 卒業生の組織化を図り、企業とのルート開拓や学生相談などへの協力の推進</p>	<p>基礎ゼミナールにおいて、キャリア支援課の紹介を行い、大学の支援体制の理解と就職の意識付けを行った。学生個人ファイルの教職員間の共有権限案を策定し、実施準備をしている。</p> <p>学友会と連携して、後援会・同窓会との連携強化に着手した。</p> <p>キャリア支援課職員を中心に、きめの細かい指導を実施している。キャリアデザイン授業等でもICTを活用し、学内インターンシップガイダンスなどの新たな取組に着手した。就職委員会内の教職員が、企業訪問して学生が就職できるよう常に新しい就職先を開拓している。学生、卒業生等を対象にしたアンケート調査についても、委託業者の見積もりを踏まえて検討している。また、OB訪問等も実施している。</p>	<p>次年度基礎ゼミナールにおいても、キャリア支援課の紹介を行い、大学の支援体制の理解と就職の意識付けを行うよう計画している。学生個人ファイルの教職員間の共有権限案を策定し、一部運用を開始した。</p> <p>学内のキャリアデザインなどの講義、インターンシップガイダンスなど、新たな取り組みに着手した。インターンシップに関しては、専任教員から、合同企業説明会においても企業側に教示し、学外からの一定の評価を得た。学生への全局面談を通じて、対象学生に対して、就職することの重要性、大学教育の大切さなど、一人一人に対して面談を実施している。</p> <p>学生への全局面談など、学生と話し合う中で、特異となる学生については、クラスアドバイザー、保健センター、学務課など、必要となる部署には連絡し、情報共有をしながら遂行している。勿論、ICTも活用しながら実施している。</p> <p>学内外で開催される会には、教職員が参加し、来場企業の担当者に挨拶し、卒業生の近況などを確認している。コロナ禍の状況下が続く中でも、教職員で企業訪問し、任務を遂行している。教員による受託研究を通じた企業団体先への就職も適い、就職の質の向上についても実施と成功事例がある。</p> <p>学生、卒業生等を対象にしたアンケート調査について、学内では、作業部会を設置し、卒業生に対しての調査は委託業者との予算を考えて進めている。</p> <p>なお卒業生の組織化を図り、企業とのルート開拓や学生相談など、協力体制を推進する具体的な連携案を模索中である。</p>	<p>◎学部長 ●教務委員長 ●学生委員長 ●就職委員長 △教務課 △学生支援課 △キャリア支援課</p>	

2022年度計画アクションプラン		上期進捗状況(2022.9)	下期進捗状況(2023.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
<広報> 1. 磐田キャンパスにおける経営学部の存在の再認識を図る ・磐田キャンパス経営学部の教育内容・就職実績をアピールし、静岡県西部地域における経営学部存在の必要性の再認識を図ることにより、新入生募集力の向上に努める。加えて藤枝キャンパスの情報・デザイン教育の実績継承を伝える 2. 各キャンパスにおける充実した「ビジネス教育」「情報教育」「デザイン」「心理」「保育」「スポーツ」「就職」「地域志向」等の特徴を強調 3. 教職員全員が各自の社会的コミュニケーションの中で広報マンの役割を推進 4. 大学祭やBiViキャンなどを利用した本学の教育活動及び研究成果の地域への発信		リレーエッセイによる教員個人の魅力の発信（経営研究センター）に努めている。教員の大学祭への積極的な参加を促している。	リレーエッセイによる教員個人の魅力の発信中である（経営研究センター）。 教員の大学祭への積極的な参加を促した。	◎学部長 ◎学生委員会 ●学生委員長 ●副学部長 △学生支援課 △広報・メディア課 △高大連携・接続G	教員の大学祭等への参加の更なる促進を図る。
<大学運営> 1. 学部間連携の下、様々な項目に対して協力することにより、大学全体の効果的運営と活性化を図る		学部間履修の充実、募集における経営学部の「スポーツ経営」関連の資産の活用、スポーツ科学部との連携を進めている。	学部間履修の学生・受験生への周知と徹底を行う。「スポーツ経営」関連の資産の継続活用と、それによるスポーツ科学部との相乗効果を目指す。	◎学部長 ●学部長	
将来構想					
項 目	2022年度計画アクションプラン	上期進捗状況(2022.9)	下期進捗状況(2023.3)	担当	次年度以降に向けての修正点
1. 大学のブランド形成	本学のビジネス教育に対する信頼を醸成し、また他校との差別化が可能な分野を洗い出し、これらを柱にして大学のブランド形成に寄与していく。	税理士試験の在学中5科目合格者輩出を積極的に周知し、実学教育の充実を柱に差別化を推し進めている。更にオンライン授業で培った資産を軸に、ICTとデータサイエンスに強い経営学部として差別化を進めている。	他大学に先駆けて新しいインターンシップに対する本学の考え方を伝えるべく、企業の経営者・人事担当者と共に勉強会を実施。さらに学内ガイダンスでは離職率軽減に向けた大学・企業双方の改善案を提示するなど他大学とは一線を画した取り組みを行っている。 2023年度から会計塾の立上げ、「資格取得支援センター」を設置。	◎学部長 ●学部長 △教務課 △キャリア支援課 △広報・メディア課	
2. キャンパスの特性を見極め、強みを伸ばす教育	経営学部の教育目標の下、新経営学部に向け、学部・学科のコンセプトを明確化し、真に地域に求められる教育体制を構築する。	藤枝キャンパスのデータサイエンス、情報デザインに強い特性を現行カリキュラムでどのように生かすか検討中。	藤枝キャンパスのデータサイエンス、情報デザインに強い特性を現行カリキュラムでどのように生かすか検討し、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」（リテラシーレベル）の申請準備を始めた。	◎学部長 ●教務委員長 △教務課	
3. 2キャンパスにわたる学部の教育及び運営の効率化とその成果の向上	・遠隔授業（オンライン、ハイブリッド、ハイフレックス）の活用する。 ・2キャンパス+BiViキャンの連携を図る。	遠隔授業、キャンパスの連携に関連して、BYODの導入に関する議論を学部合同ICT委員会において行った。本件はICTだけでなく教務にも関連するため、今後は関係する委員会等に働き掛ける。	BYODに関しては、学部合同ICT委員会のほかICT推進会議において、高校の端末必携化世代の入学時期等を考慮しつつ、導入の方法について検討を続けている。次年度の入学学生に対しては、今年度に引き続き入学に関連した案内資料の一部としてパソコン等の購入を推奨するリーフレットを配布する予定である。 遠隔授業については、あらかじめ実施形態が遠隔とされた科目のほか、対面授業とされた科目も一部の回を担当教員の判断により遠隔授業で実施されている。特に、実施形態が遠隔とされた科目の一部は、同じ時間帯に両キャンパス同時に開講されている （前期科目 後期科目）	◎学部長 ●ICT委員長 △教務課 △情報システム課	